



# 防災意識を高めよう!

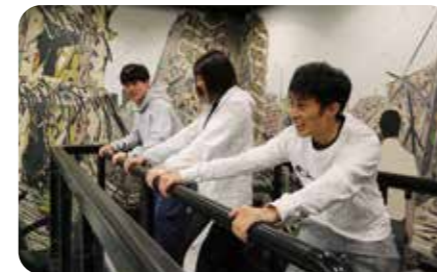
近年、頻繁に発生する地震や台風など災害が増えています。さらにこの時期は、線状降水帯の発生などにより、災害がいつどこで発生するか分かりません。

皆さんは災害への備えはできていますか?身を守るために、災害に対する知識や行動力を身に付ける必要があります。そこで今回は、防災意識を高めるために防災研修センターや市民の安全を守る消防車両や資機材についてご紹介します。災害に対する備えを身に付け、いつどんな状況になっても焦らず落ち着いて行動できるよう心掛けましょう。

## ◎防災研修センター

防災研修センターでは、実際に「地震」「暴風雨」「煙」「初期消火」「Q&A、119番通報」の体験ができます。

### ■地震体験



3次元に動く振動装置に乗り、東日本大震災など過去に起こった大地震の揺れを体験できます。

### ■初期消火体験



映像スクリーンの火災に向けて水消火器で正しく消火する体験ができます。

入館無料、申し込み不要で、誰でも体験することができます。詳しくは、消防局ホームページをご確認ください。



▲消防局防災研修センターについて

## ◎新たに更新した消防車両、資機材

### ■消防ポンプ車



火災現場では、消火栓や防火水槽などから水を確保し、火災の前線にいる消防車に絶えず水を送る重要な役割を持ちます。また、他の車両より小型で機動力に優れており、狭い道でも走行できるため、救急隊の活動応援(PA連携)など多岐にわたって活躍する車両です。

### ■災害支援車



交通事故や爆発事故など、多数のけが人が出る災害に出場した際に、一度に多くの人を搬送することができる車です。また、多くの資機材を乗せることもできるため、潜水隊出場時の資機材搬送も行います。

### ■ホースカー



防火水槽や消火栓が消防車から遠い場所にあるときに活躍します。長い距離を伸ばせるように10本のホースが積載されています。最大で200メートル延長することができます。

### ■大型油圧救助資機材



写真右：大型油圧スプレッダー  
写真左：大型油圧カッター  
交通事故や倒壊、崩落事故などの救助現場において、重量物を持ち上げたり、隙間を広げたり物を押し潰したりする作業(スプレッダー)や、切断作業(カッター)を行う際に活躍する資機材です。

消防車両や資機材は、近くの消防署で見学できます。お気軽に足を運んでみてください。

災害はいつ起こるか分からないからこそ、普段の生活の中で意識しながら過ごすことが大切です。災害が発生しやすいこの時期、みんなで防災意識を高めましょう!

# 市民みんなで防ぼう! 有害鳥獣被害

本市ではイノシシやシカ、サル、カラスなどの鳥獣による被害が発生しています。

特にイノシシ、シカが田畑へ侵入することで、農作物の収穫量が減ったり、あぜを掘り起こされたり崩されたりなどの被害が深刻化しています。

「捕獲してもらえないから大丈夫」「柵を取り付けたから安心」「収穫できない分は捨ててしまおう」とう考えでいませんか?

被害防止のポイントを理解し、鳥獣を寄せ付けない環境づくりに取り組みましょう。

鳥獣による農林産物への被害を防ぐため、基本として3つの柱を立てて防止していこうという取り組みがあります。この3つの柱それぞれの鳥獣対策について紹介します。

## ①「寄せ付けない」ための取り組み

- 収穫しない野菜や果物を放置しない
- 収穫せず放置している果樹は伐採する
- 有害鳥獣を見かけたら必ず追い払う

有害鳥獣に餌場を提供しないこと、人間は怖い生き物だとして、さりげなく知らせることが重要です。



▲【悪い例】放置された野菜

## 電気柵などの利用

電気柵を設置することで、電気ショックを与え、痛みにより柵は危険だと学習させることで、柵に近寄らなくなり、侵入を防ぐ効果があります。正しく設置し運用することが、より効果的な被害防止対策になります。



▲侵入を防ぐための電気柵

## ②「侵入を防止する」ための取り組み

### 緩衝帯を設ける

有害鳥獣は、山林や耕作放棄地に身を隠すなど、私たちの近くにいる場合もあります。

対策として、山林に接する農地では、緩衝帯を設けましょう。見通しが良くなることで、鳥獣が身を隠す場所がなくなり、侵入をさせづらくすることができま



## 有害鳥獣被害防止対策

# 3つの柱

- ① 寄せ付けない
- ② 侵入を防止する
- ③ 個体数を減らす

## ③「個体数を減らす」ための取り組み

### 猟銃やわなによる駆除を実施

農作物などの被害拡大を防ぐため、市は、地域猟友会に委託し、駆除を実施しています。

※銃やわなを取り扱うには免許を取得する必要があります。免許取得を希望される方は、免許取得費用の一部助成などもありますので8月10日(木)までにお問い合わせください。

早期に捕獲することが大切です。見つけたらすぐに問合せへご相談ください。

有害鳥獣被害をなくすためには、「寄せ付けない」「侵入を防止する」「個体数を減らす」の3つの柱を中心に対策に努めていくことが重要です。「誰かがやってくれるだろう」という感覚ではなく、みんなが有害鳥獣被害対策に取り組ましましょう。